

第1章 調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査の枠組みについて

(1) 調査目的

第3次鎌倉市総合計画は、平成8年3月に策定され、平成37年度までの基本構想、平成27年度までの基本計画を定めています。市では、基本構想に掲げた将来都市像である「古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち」の実現に向けた市政運営を進めてきました。

現行基本計画は、人口減少社会の到来、右肩上がりの経済の終焉といった社会経済状況の下、新しい時代の社会変化に対応した「元気で輝く鎌倉」をつくるための計画として平成18年に策定し、これまでに前期・中期・後期の3期の実施計画に取り組んできました。

平成24年度にスタートした後期実施計画は、景気の低迷により市の歳入の根幹をなす市税収入に大きな改善が見込めない中、中期実施計画からの継続事業に新たな事業が加わったことにより、計画規模が拡大し、大きな財源不足が生じる結果となりました。

加えて、公共施設の老朽化に伴う維持管理・建替費用の増大や、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」を踏まえた安全・安心なまちづくり、特に、14mを超えると予測される大津波に対する防災・減災対策は、本市における新たな、そして緊急を要する課題であり、現在策定中の地域防災計画に基づいた取組が急務となっています。

このような中で、「鎌倉」に住むこと、訪れることの素晴らしさを、市民はもとより、世界中の方々に再確認してもらえるよう、もう一度、基本構想における将来都市像の実現に向けたまちづくりを力強く進めていかなければなりません。

そのためには、今こそ、危機的状況にある、硬直化した行財政運営を改め、持続可能な都市経営をこれまで以上に推進するとともに、市民力・地域力を発揮し、鎌倉が誇る資源を活かしながら、新しい魅力を創造し続けることが重要です。計画の策定にあたっては、このような認識に基づいた、新たな視点からの対応が求められます。

そこで、今回、基本構想を一部修正するとともに、現行基本計画の見直しに着手し、次期基本計画を前倒しして策定しようとするものです。

計画策定にあたっては、より多くの市民がさまざまな方法で参加し、意見を述べる仕組みを設けることとしており、この市民意識調査も、計画策定における市民参加の一環として、市民の意向やニーズを把握することを目的として実施しました。

(2) 対象

平成24年9月1日現在、鎌倉市在住の18歳以上の市民のうち、2,000人を単純無作為で抽出し、対象としました。

(3) 調査の構成

調査の構成は、以下のとおりです。

基本属性 ... 4問
鎌倉市への意識や生活状況についての設問 ... 2問
・定住意識について
・近所付き合いについて
重要度・満足度指標についての設問 ... 88問
・施策別の重要度・満足度について
・特に強く取り組むべき行政施策
・特に強く取り組むべき政策分野

(4) 調査の実施方法

平成 24 年 9 月 21 日（金）から平成 24 年 10 月 9 日（火）までを調査期間とし、郵送配布・郵送回収により実施しました。

2. 調査票回収状況と回収率について

調査票の回収状況と回収率は、以下のとおりです。

配布数	有効回答数	回収率
2,000 通	855 件	42.7%

3. 集計について

図表の数値は、回答率を表しています。なお、四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合があります。

複数回答の設問では、合計が 100%を超える場合があります。

重要度、満足度について

- ・重要度については、「重要である」を 2 点、
「まあ重要である」を 1 点、
「あまり重要でない」 - 1 点、
「まったく重要でない」 - 2 点

という得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出し、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答数で除した数値を重要度指標として示しました。指標値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。

- ・満足度については、「満足である」2 点、
「まあ満足である」1 点、
「やや不満である」- 1 点、
「不満である」- 2 点

という得点を設定して、重要度と同様に算出した数値を満足度指標として示しました。指標値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。

- ・重要度、満足度の（ ）数字は、負数（マイナス）であることを表します。